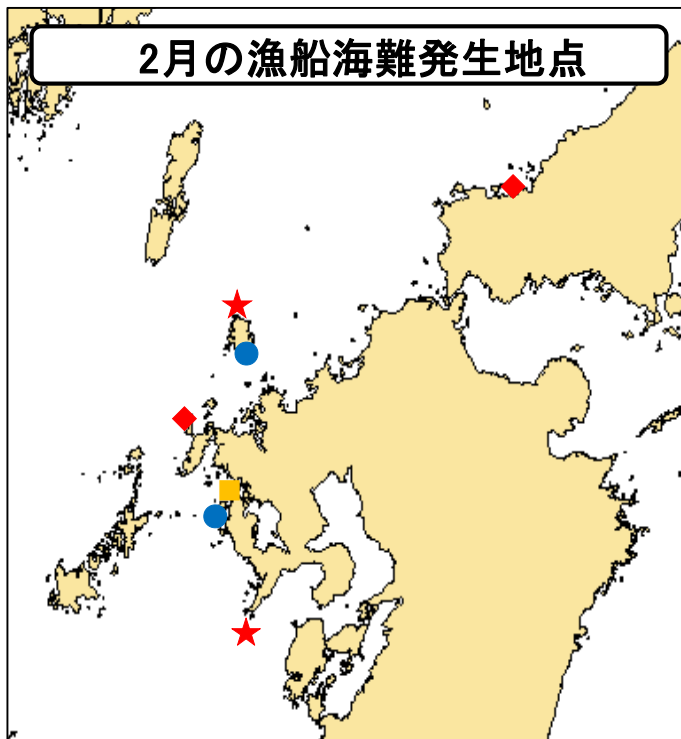


令和2年2月
七管内漁船海難 計7隻

令和2年2月累計13隻(前年15隻)

漁船海難発生累計件数は前年に比べ2隻減少

漁船海難隻数 (速報値)			県別内訳		
			2月	令和2年累計	
衝突	★	2	山口県 1	1 (1)	
運航不能 (無人漂流)	◆	2	福岡県 0	3 (4)	
浸水	●	2	佐賀県 0	1 (2)	
乗揚げ	■	1	長崎県 6	6 (5)	
			大分県 0	2 (3)	
合計 7 隻 (前年 9 隻)			合計 7隻	13隻 (15隻) ()は昨年同月	



県別内訳表は、各県に所在する海上保安部署の担当海域にて発生した海難の合計数を示しています。数値は速報値です。



浸水し転覆したA丸

< 事故事例(浸水) >

一人乗りのA丸は、海上が時化してきたことから帰港していたところ、船尾側から波が打ち込み続け、右舷側に大きく傾き転覆しました。海中転落したA丸の船長は救命胴衣を着用していたため体力の消耗を抑えることができ自力で転覆したA丸の船底部によじ登って救助を待ち、駆け付けた仲間の船により救助されました。

注目 気象海象を常に把握！救命胴衣の着用を！

- ・出港前に**気象情報**を入手し、無理のない出港を心がけましょう
- ・出港後も常に気象情報の変化に注意するとともに、万一の海中転落に備え、**救命胴衣**を着用しましょう。

